

# タウン情報⑩

## 秦氏と大熊氏

明治になって名主制度がなくなり、戸長制度が出てきて、久我山では秦太左衛門さんが戸長になった。それに、秦野姓があまりにも多く、戸長が秦野の【野】をなくして戸籍謄本に記入してしまいました。その為、秦野姓が無くなりました。なお、明治以前については確かめる資料がない。

大熊については、小田原北条氏の家臣である大熊修理亮景勝が小田原城没落後、久我山に落ちのび帰農したといわれています。

景勝は落城の折、若君をつれて落ちてきて永福寺にかくまってもらいましたが、敵方に発見され、再起できず死に至りました。

大熊一族は五月の節句には、こいのぼりが上がると、紋所から素性が判るといので、代々こいのぼりは立てない習慣が続いていました。

岩通(株)発行 久我山の歴史と北烏山寺町



図1.3-1 秦家家紋  
(蔦紋に窠輪)



図1.3-2 大熊家家紋  
(五三の桐に窠輪)

## タウン情報⑪

### 久我山駅は田んぼの上に

帝都電鉄社員の安藤樽六氏が土地買収に成功したので、昭和8年(1933)に渋谷から井の頭公園の間の電車が開通しました。当時の農家は、土地を売る事に難色を示していたので、困った安藤氏は、高井戸第二小学校の西側の地に住まいを建て、じっくりと農家との交渉を進めました。農家の好感を得た安藤氏は、一気に土地買収を進め畑より安い田を買いました。久我山駅を建設する以前は田んぼでした。井の頭線が敷設されると、秦 銀蔵さんは、線路の向こう側の畑にいけなくなり困ってしまいます。電鉄会社は、陸橋を架けて南側の畑に行けるようにし、橋の名前を「銀蔵橋」と名付けました。

庄司芳昭著 久我山昔話より抜粋

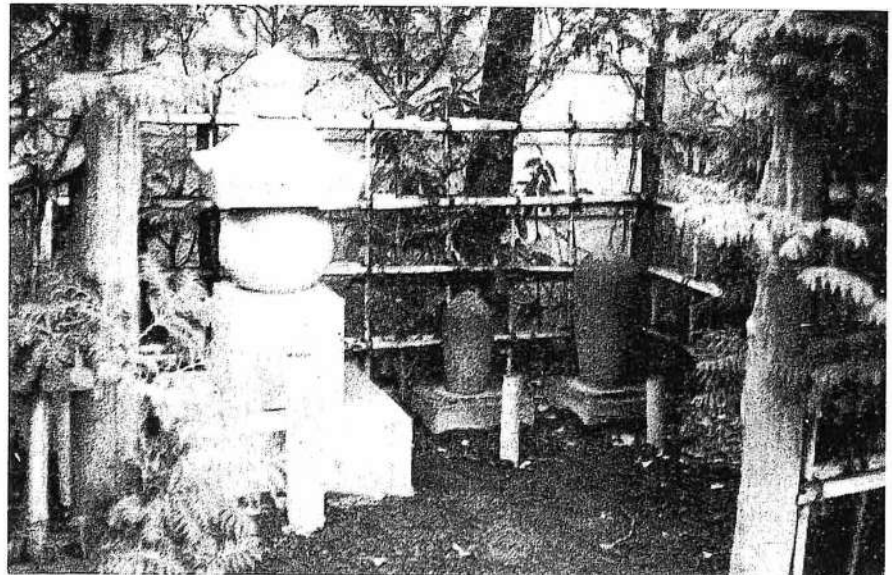
## タウン情報⑫

### 松庵と江戸紫

萩窪駅南側の松庵1・2・3丁目は、江戸初期は茅野原でした。万治寛文の頃(1660年)開墾されて松庵新田となり、享保の頃より松庵村となりました。また、萩野松庵と言う医師が幕府から開墾を請負ったので「松庵新田」へと変わりました。

ある夜、松庵の仙蔵と言う農家に1人の旅僧が一夜の宿を求め、仙蔵は一家を挙げて接待したので、大変喜ばれ、僧は傍の畑の畦に生えていた雑草を引き抜いて「この草の根をきれいに洗って、押し潰すと紫色の汁が出るから、この汁に白布を漬け染色して売ちなさい。きっと幸せが訪れるでしょう」と言って立ち去りました。試みに売り出すと大変な評判になり、爆発的に流行して「江戸紫」と呼ばれるようになり財を成しました。後に、岸野仙蔵は「円光寺」というお寺を建立しました。

森 泰樹著「杉並区史探訪」より抜粋



円光寺住職墓地 右側の円頭の墓石は寿海和尚の墓、五輪塔は昭和四十年建立の供養碑